

おむすび通心

皆さん、こんにちは！

私たち焼津市の認知症地域支援推進員です。涼しい秋風に、高く澄んだ空。大きく深呼吸したくなるような、気持ちの良い季節になりました。

さて、9月は『認知症月間』、9月21日は『認知症の日』でした。認知症に対する関心と理解を深め、認知症になつても希望を持つて暮らせる社会を目指して、今年も全国各地でイベントや啓発活動が行われました。

わが街焼津でも、認知症月間に合わせ、様々な啓発のための活動が行われました。今回のおむすび通心では、認知症パネル展示やオレンジロフエス、就労的活動支援コーディネーター野口さんへのインタビューをご紹介しますので、ぜひ、最後までご覧ください！



認知症月間に合わせ 認知症パネル展2025を開催！！

第18号
2025年 秋

みんなの声は暮らしやすい地域づくりの原動力！！

家族からのメッセージ

- ・認知症は本人にとつても介護する人にとっても大変です。あたたかく見守ってください。
- ・不安な気持ちに寄り添える余裕を持つため自分も大切にする。

地域の人からのメッセージ

- ・認知症の方に声をかけられる、あつたかい街になつたら良い。
- ・お互い安心して心の通じ合える街づくりをしたい。認知症になつても大丈夫。
- ・認知症の診断後も、地域や社会とつながりを持ちながら、これまでどおりの生活をしていく認知症の人が多くいます。また、認知症の人やその家族とともに過ごすことで、認知症に対する見方が変わり、地域とともに暮らす仲間として認知症の人と接することができ

る『新しい認知症観』を持つ人が増えてきています。

認知症の人からのメッセージ

- ・認知症になつても社会で貢献できる場所があれば良い。
- ・話が伝われば嬉しい。友達が欲しい。



新しい認知症観とは

認知症になつてからも、一人ひとりが個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望をもつて暮らし続けることができるという考え方です。

オレンジDフェス 長久寺×お~んがく~る



(左から)長久寺の武藤住職、お~んがく~るの吉永さん、チームオレンジコーディネーターの坂本さんと望月さん

9月29日（日）、今年も認知症月間に合わせて『オレンジDフェス』が開催されました。日頃地域との繋がりがある長久寺や、「お~んがく~る」と一緒に焼津市キャラバン・メイトが企画しました。



会場の長久寺（田尻北）では、各種出店、音楽やダンスのステージ、「認知症よくわかるた」大会などが行われました。子どもからご高齢の方まで大勢の方が、認知症支援のシンボルカラーレーのオレンジ色の物を身に着けて参加してくれました。今年のテーマは『人と人の繋がり』。長久寺の武藤住職から「このイベントを通じて、いろいろな世代の人々が、9月は認知症月間という事を知つていただけたら嬉しいです。」とお話し

働きたいシニア世代と 地域に貢献したい焼津市の企業をつなぎます!!



モノダス凜の吉田さん宅のお庭にて草取り活動



(左から)モノダス凜の吉田さん、就労的活動支援コーディネーターの野口さん

就労的活動支援コーディネーターの野口さんにインタビュー

Q 就労的活動支援コーディネーターとは？

A 高齢者の得意な事、やってみたい事と、企業が地域の高齢者にやつてほしい事を引き出し、双方のニーズが合致した方同士をマッチングさせる役割です。

Q 活動して良かった事、課題はありますか？

A 良かった事は活動している方から「野口さんに会えてよかったです。楽しみが増えたよ。」と感謝のお言葉をいたいた事です。課題はまだまだ周知が足りないと感じるので引き続き頑張っていきます。

Q 市民の皆さんへメッセージ

A 焼津市は日本一元気な高齢者がいる街と言われるようになります。また就労的活動には軽度の認知症の方も参加されています。すべての高齢者が輝ける活動を考えていきたいです。

今年の夏から月2回、10名程の方が集まって一時間程の草取りを行い、謝礼としてその後お菓子や飲み物などをいただいて交流会をしています。活動している方からは「草取りが好き。交流できて嬉しい。」とお話してくださいました。健康食品の販売をしているモノダス凜の経営者の吉田さんからは「草取りが大変だったので大助かり。」と喜ばれています。交流会では、健康話や柿の話、畑を作る話など会話がとても弾んでいました。

【発行】 焼津市地域包括ケア推進課
各地域包括支援センター（北部・中部・南部・大井川）

第18号編集／大井川